



<コロナウィルスに関する協議会運営のお知らせ>

新型コロナウイルス感染防止のため、南区自立支援連絡協議会では、集まって行うワーキンググループなどの活動を当面中止いたします。研修、イベントなどの開催につきましても今後の状況を見て検討いたします。7月下旬をめぐりに再検討した上、みなさまに報告いたします。

会議等は中止いたしますが、必要な情報共有などはメールや電話などで継続していきますので、ご意見等は事務局：南区障害者基幹相談支援センターまでお願いいたします。みなさまもお体には十分お気をつけてお過ごしください。

<要援護者の防災を考える会>

令和2年2月11日（祝）に「障がいのある人もない人もみんなで防災 避難所体験訓練」を開催、南区の障害当事者や地域住民、多くの学生ボランティアを含む協力機関・団体180名が参加されました。

受付においては要配慮者受付を再現し、各学区訓練参加に要配慮者受付のガイダンスを行い、受付の様子を見学してもらいました。その後、会場の南区役所講堂



内では11班に分かれ、要配慮者の方からのニーズの聞き取り（ニーズ調査票の記入）、グループ内メンバーの自己紹介、簡易洋式便座組み立てやパック式トイレ凝固実験等のグループ活動、段ボールベットや仮設トイレ、投光器、100円防災グッズ等の展示見学、健康管理体操や食料配給等を体験しました。食料配給ではアルファ化米3種にお湯を入れ作った物の食べ比べを行いました。

今回は初めての避難所体験訓練でしたが、想定よりも多くの皆様にご参加いただき、南区地域の防災の意識の高さを実感しました。アンケートによるご意見を参考にしながら来年度以降もより良い体験訓練になるように企画を進めていきたいと考えています。

<児童の生活を考える会>

今年度は全体会議を2回、遊びの研修会1回、みなみっこフェス実行委員会3回、みなみっこフェスを1月に行いました。みなみっこフェスでは、2歳から高等部のたくさんのお子さんにご参加いただき、ご協力ありがとうございました。今回は巨大段ボール迷路、巨大ボーリング、的当てゲーム、干支のねずみの制作、ボールプール等を行いました。子ども達から「楽しかった」という声が聞かれ、今後も大きい集団での企画を継続していきたいと思います。また、来年度からワーキング代表と他2事業所と基幹で運営内容を決めていくこととなりました。来年度は「アーチしばたさん」と「あしたもえがおさん」にご協力いただき、より充実した内容にしていきたいと思います。よろしくお願い致します。

<地域生活支援拠点の面的整備の会>



南区の『地域生活支援拠点事業』始まる！！

令和元年9月18日 南区役所講堂にて、地域生活支援拠点事業の面的整備に関する研修会を開催しました。

～誰もがいつか、何らかの要因で障害を負ったり、高齢化から障害が重度化することがあります。支える家族の急病や不在を、一時的に支えるために、南区の自立支援連絡協議会を通して皆で考えます～

令和元年5月に、南区要町にある社会福祉法人 名古屋キリスト教社会館は、法人の西館で名古屋市の補助事業である拠点事業所としての運営を開始しました。

緊急的なショート利用を目的に1部屋が用意されることになりました。

<相談支援連絡会>

今年度は大学の教授や講師の方に来ていただいて研修をおこなうことで、相談員としてのスキルアップを図りました。その中で、後半期には「地域交流に住民から待ったがかかった！安定した生活を送るためにどんな支援をしていくか」と題して、ケースメソッド教授法を学びました。相談員の方々からの満足度も高く、来年度も引き続き勉強していくことになりました。事例検討も大学教授のスーパーバイズを受けながらおこなうことで、相談員としての大切な視点を学ぶことができました。

区役所福祉課・保健センターにも会議出席を依頼し、できるかぎり参加していただいています。南区では月に1度「障害者・差別相談支援会議」をおこない、対応困難と感じているケースに関して、行政に相談できる会議を設けております。福祉課長より相談支援連絡会において、1年の取り組みの実績を話していただきました。情報共有しながら支援していくことの大切さも学んでいただけたと思います。

<地域福祉力を伸ばそう>

今年度は『あなたも誰かのサポーター～こころの健康ピアサポーター養成講座』と題して、中学生に向けた研修をおこないました。中京大学准教授、川島大輔先生に講師を依頼し、悩んだ時、親や学校以外にも相談できる場所がある、ということを知ってもらうため、ゲームをしながら学んでいただきました。教授のゼミ生の方にもファシリテーターをお願いし、参加した中学生の方たちからも「参加して楽しかった！」という感想をいただきました。研修自体が終わった後も話が尽きない姿が印象的でした。

初めての試みであったため、中学校への働きかけをどのように進めていくかが課題でしたが、子ども応援委員会に協力を要請し、連携しながら進めていくことができました。

来年度も引き続き開催する予定です。今後も、川島先生を中心に、子どもたちの気持ちに寄り添った研修がおこなえるよう進めていきたいと思っております。

<福祉関係事業所連絡会>

11月14日、「自閉症や知的障害者の『問題行動』への支援に関する研修」を開催、39事業所49名が参加されました。参加者からは「起こった問題ではなく、問題がおこるきっかけや理由を把握するための、観察が重要とわかった」「記録の大切さを再認識した」「『問題行動』が、本人からの、何らかのサインかも、と着目する」「環境調整が重要」「当日得たことを、さっそく実践したい」「職員が心に余裕をもてることが大切という提言に、とても考えさせられた」などと、好評でした。第2弾を、2月27日に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止しました。

<ささえあいのまちづくり事業>

テーマは「こころ生き生きともに生き生き 障害者スポーツを応援しよう」という事で、車いすテニスプレーヤーの石本直美さんに講演と実演、体験を行いました。実演では素早いターンをしながらボールを打ち返す姿があり地域の方も驚いておられました。50名程の方々にご参加いただき、車いすテニス・スポーツ用車いす・ボッチャ・テンピンボウリングを順番に回って、充実した体験をしていただきました。石本さんのようにちょっとしたキッカケで子ども達や地域の方が障害者スポーツと出会い内面の変化や生活の充実に繋がっていったらと思います。

<課題検討会>

子ども応援委員会の朝位さんを迎え、～「本人の視点を大切にしたまちづくり」のために、地域の子どもたちとつながる取り組みを考える～をテーマに、地域での子どもたちの取り組みについて学びました。社会福祉協議会の「福祉教育」や子ども食堂、児童館など、地域での取り組みを知り、また、学校とつながりを作る大切さについても実践を通して気づくことがたくさんありました。今回のことを今後の南区協議会の活動につなげて考える良い機会となりました。

発行元：南区自立支援連絡協議会事務局

南区障害者基幹相談支援センター

TEL：052-822-3001 / FAX：052-822-3035